

西ドイツ剣道連盟

6ヶ月間の剣道指導と第6回世界剣道選手権大会

小 森 富士登

1 はじめに

西ドイツ剣道連盟に剣道指導員（Bundestrainer）として、全日本剣道連盟の要請により派遣され、昭和59年10月25日より昭和60年4月15日の約6ヶ月間を第1表の日程で指導を行った。

第一表 指導日程

| 期 間 | 内 容 | 場 所 |
|---------------|-----------------------|-----------------|
| 10月27日～ 28日 | 西ドイツ地区対抗試合 | ハノーヴァー |
| 10月28日～11月30日 | 一 般 | ケルン・ ドゥセルドルフ |
| 12月1日～12月31日 | 一般 寒稽古 | 西ベルリン |
| 12月31日～1月15日 | 一般 寒稽古 | ハノーヴァー |
| 1月16日～2月3日 | 一般・西ベルリン選手権大会 | 西ベルリン |
| 2月4日～2月15日 | 一般・寒稽古・ ハンブルグ選手権大会 | ハンブルグ |
| 2月16日～3月13日 | 一般・ ニーダーザクセン州選手権大会 | ハノーヴァー |
| 3月14日～3月20日 | 合宿・バイアン選手権大会 | ミュンヘン |
| 3月23日 | 西ドイツ地区対抗試合 | セーシェル |
| 3月24日～3月30日 | 西ドイツ合宿 | 〃 |
| 4月4日～4月8日 | ナショナルチーム合宿 | 西ベルリン |
| 4月11日～4月15日 | 第6回世界剣道選手権大会 | パ リ |

西ドイツ剣道連盟には、昭和58年12月18日より昭和59年5月21日までの約6ヶ月間、国士舘大学からの派遣でニーダーザクセン州ハノーヴァー市に駐在した。今回は2度目の派遣であった為に西ドイツ剣道家達の中にも大勢の友人がいて、異国での淋しさや疲れは皆無であった。むしろこの西ドイツ国で剣道の指導をすることに今回の私は誇りと自信を持って、元気いっぱい指導を行なうことが出来た。

西ドイツ剣道連盟は、1969年に公式にドイツ柔道連盟（DEUTSCHER

JUDO-BUND) に所属した。

本稿は、西ドイツ剣道連盟の歴史、昇級・昇段審査、第6回世界剣道選手権大会、課題を整理・概述して西ドイツ剣道連盟の(Bundestrainer)としての出張報告書の一部とする。

2 西ドイツにおける剣道

第2次世界大戦前の日本軍による剣道の公開を別にすれば、西ドイツに於て剣道が開始されたのは1966年のことである。

ヴィシュネフスキー(2段)が、ヴィースバーデンの町でドイツ人有志を募って教えたのである。

西ドイツ剣道連盟は、1969年に公式にドイツ柔道連盟(DJB)に所属したが、その時にはすでに7つの剣道家グループがあった。

1970年には、全日本剣道連盟、及び、早稲田大学の師範の人々との交流を開始する。

1971年10月23日には、西ドイツ各州の代表者会議がマイハイムの町で開かれ、レンプ氏が議長に選出され、デムスキー氏が代表者となり、以来、デムスキー氏は、西ドイツ剣道連盟の会長を続けている。

1973年10月20日には、早稲田大学卒の金田安正(5段)が迎えられ、1979年のはじめまで剣道の指導に従事され、ドイツ人剣道家の実力をヨーロッパ的レベルまで引き上げると同時に、ドイツ国内の青少年剣道の育成に努力される。

1974年には、全日本剣道連盟の大島功師範を招いて、連盟主催の合宿を実施する。この合宿には、1975年から早稲田大学の安藤宏三師範が毎年参加されており、有名なイースター祭の休暇を利用して行なわれている。1978年になると、ドイツ剣道連盟は、全日本剣道連盟に日本人剣道家による滞在指導を依頼した。この依頼に応じて、警視庁の伊藤克彦助教が公式派遣され、以来、警察官や大学の教員が次々に強化指導にあたっている。



西ドイツ剣道連盟合宿，西ドイツナショナルチームメンバーと
国士館大学・日本体育大学の学生の交流（セーシェル）

このように，多くの日本人指導者に恵まれた結果，現在の剣道人口は，連盟登録 700 名を数えるまでに発展した。ヨーロッパにおけるスタートは決して早い方ではなかったにもかかわらず，今日ではヨーロッパ剣道発祥の国イギリスを抜き，フランスに迫るほどの実力を持つに至ったのである。

西ドイツ剣道選手権（個人戦）は，1972年以来毎年開催されている。1982年からは，年齢によって 2 グループに分けられている。団体戦は1975年から，女子と少年の個人選手権は，1981年から毎年開催されている。

ヨーロッパ，世界選手権大会には，毎回参加し好成績を収めている。1977年にフォルストロイター 5 段(医学博士)・1983年にイエトコフスキー 5 段・1984年にレーマン初段がヨーロッパ選手権（個人戦）で準優勝し，1983年にはビアー氏がヨーロッパチャンピオンになっている。団体戦では，1978年と1981年にヨーロッパ選手権で準優勝し，1983年には，4 度目

の挑戦で念願の優勝を果している。世界選手権大会においても、団体戦でベスト8を獲得するほどの健闘をしている。アントホルツ4段やブランド4段は敢闘賞を獲得している。

3 昇級・昇段審査

初段を受験する以前に6級から審査を受けなければならない。昇級審査受験資格には、取得日より6ヶ月間の経過が必要であり、どんなに頑張っても、有段者になるまで最低3年を要することになる。もちろん、実技（第2表参照）についても、相応のものが身につけていなければならない。日本の3段位の實力に相当するだろう。

第二表 昇級・昇段審査内容

| | |
|-----|-------------------------------------|
| 6 級 | 素振り・打ち返し |
| 5 級 | ” ” 打ち込み・竹刀の組み方 |
| 4 級 | ” ” ” かかり稽古・実技 |
| 3 級 | 打ち返し・かかり稽古・実技・剣道形3本 |
| 2 級 | ” ” 応じ技・実技・剣道形5本 |
| 1 級 | ” ” ” ” ” 7本 |
| 初 段 | 打ち返し・応じ技・（突き摺り上げ面）かかり稽古・実技・剣道形10本 |
| 2 段 | } 打ち返し・かかり稽古・応じ技（小手抜き片手右面）実技・剣道形10本 |
| 3 段 | |

昇級審査については、国際剣道連盟（IKF）の規約に準じ3段までの審査が行われている。

居合道においては、2級からはじまり、剣道の所有段位を越える昇段審査受験を禁止している。

基本的に西ドイツ剣道連盟は、ドイツ柔道連盟（DJB）に所属しているために、柔道連盟の規約に準じ、有段者（ブラックベルト）はそのまま指導者として認識され処遇されている。初段でも技術以外に指導法やケガ

の応急処置などの能力を併せ持っていないからではない。日本では各段位の基準が明確に示されていないが、これはドイツ人の国民性にもよると思われる。

思うに哲学の国ドイツの人々は、論理的にものごとを考える傾向が強い。為に、彼らは論理的にすなおに納得できることでなければいかなるものも受け容れない。このような国民性の土台の上に西ドイツ剣道の進歩もあったと私には思われる。従って、将来の西ドイツの剣道の発展にはあらゆる面において日本人に合理性が望まれるであろう。

4 第6回世界選手権大会

今回私が参加した第6回世界選手権大会は、1985年4月13日、14日の両日、フランスの首都パリのクーベルタン体育館で開催された。

11日に西ドイツ選手団は、宿舎であるイビスホテルに到着した。早速、午後2時より抽選会、3時より監督会議が行なわれた。夜8時から、メ



バナー掲揚と選手宣誓

ルクールホテル宴会場で歓迎パーティーが盛大に開催された。

12日には、午前9時30分より国際剣道連盟会議や審判会議及び講習会などが行われ、大会開催に向けて着々と準備が進められた。

13日午前9時、フランス少年少女剣士の掲げるプラカードに先導され、各国選手団が入場、開会式が挙行された。各国のバナー（国旗）が掲揚され、須郷智大会実行委員長の開会宣言。続いて、大島功大会会長代行の挨拶。更に、大会参加選手を代表してジャン・クロード＝ジロー選手（フランス）が選手宣誓、伊藤雅二審判長の説辞。笠原杯が大会に寄贈され開会式が終了した。

1. 団体選手権

A・Bの2会場に分かれ、1チーム7人登録の5人制による団体戦で、予選リーグには23ヶ国が参加。午前9時30分に、3チームあるいは4チーム1組の予選リーグが7パートに分かれて行われ、各パートの1位と2位のチームが決勝トーナメント戦に進出した。

西ドイツチームは、Cパートでベルギーと台湾と対戦。4－1、3－1と勝ち進み、特に強豪台湾を3－1で破り大殊勲をあげ決勝トーナメント戦に進出したが、決勝トーナメント戦初戦でアメリカに4－1と破れた。しかし、試合内容は素晴らしく、西ドイツの剣風と活躍振りが異彩を放った試合であったと各国の大会役員や外国通の高段者から好評を得ることができた。

2. 個人選手権大会

14日は、同体育館で午前9時より24ヶ国145名の選手が参加（1ヶ国7名以内）して個人戦が、A・Bの2会場で行われた。

まず、3人によるリーグ戦のあと、その勝者によって決勝トーナメント戦が争われたが、西ドイツからはレーマン初段が決勝トーナメント戦に進出、そのレーマン初段も1回戦で敗退。前日の団体戦と相違して、実力が充分に出しきれない、課題の残る試合と評せるものに終わった。

4 今後の課題

西ドイツ剣道連盟は、まだ15年という浅い歴史しか持たない連盟ではある。しかし、今ではヨーロッパ剣道発祥の国イギリスを、剣風・実力ともに越え、剣道への取り組み方も素晴らしいものがある。そういう意味において、また、ヨーロッパ剣道発展の使命の大きさにおいても、特筆されるべき連盟である。

西ドイツ剣道連盟は、1978年以来、日本人剣道家による滞在指導員を毎年迎えてはいる。しかし、わずかに6ヶ月間という短かい期間であり、更に指導員が警察官や教員とまちまちである。その結果として、指導内容も少々違ってきている。近年、ルール改正も多く、講習会の不足やその他、幾多の問題が山積している。

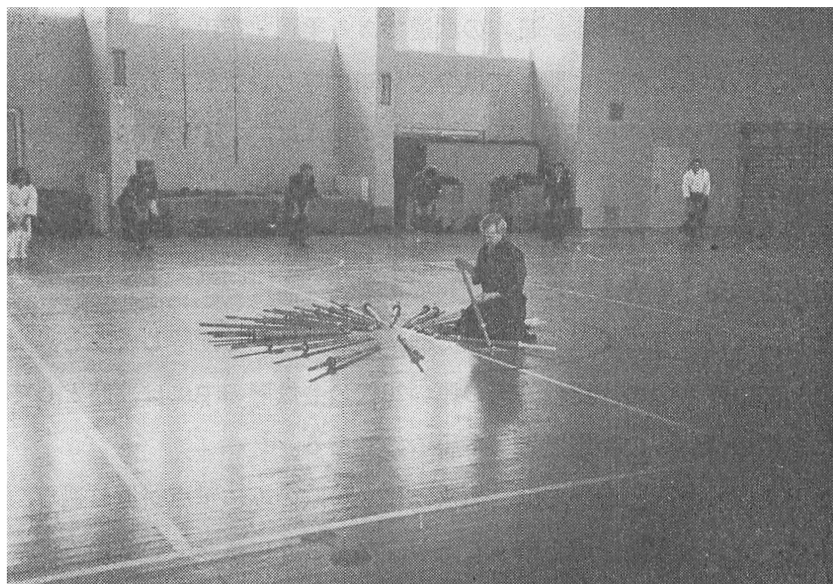
では、西ドイツ剣道連盟は、実際には具体的にどのような問題点を抱えているのであろうか。

1. 海外剣道修業者については一般的にいえることではあるが、防具・竹刀・稽古着・袴などの輸入問題である。

実際問題として、剣道家グループは個別に日本の武道具店から輸入している。しかし輸送時間がかかなり長く、輸送料と関税を加えると日本に於ける防具の価格の2倍となる。また、西ベルリンクラブにおいては、居合刀の場合、そのイメージからか、模擬刀で刃がついていないにもかかわらず当局からクレームがついた。所持が許可されたのは最近のことで、警察ではなく連合軍の一番厳しい許可証が必要で、他に年間15マルクの登録料までを支払っている。

竹刀は気候の関係や「手の裡」^{うも}の悪さ等で割れやすく、防具（特に小手）は消耗が激しく、修理技術がないために日本の武道具店へ修理をお願いしている状況である。

いずれにしても、海外剣道家には修業を続けることには相当度の経済的



竹刀の破損を調べるフランツ、ヘネット三段（画家）
ミュンヘン剣道クラブ

負担が必要となる。特に、学生にとっては厳しい負担である。

なお、竹刀の破損により、過去にドッセルドルフ剣道クラブにおいて、日本人の後藤博士が亡くなられている。それ以来、竹刀の破損による危害防止に十分な留意がなされている。

2. 会員数と施設について

各剣道クラブは、公立のスポーツホールや学校・警察所などの体育館を利用しているが、クラブ会員数が他のスポーツクラブ（バスケット・バレーボール・ハンドボール等）に比べ非常に少ない。そのために、思うような体育館利用が出きない状態で、週3回の練習が普通である。

西ドイツ剣道クラブの将来のためにも、各剣道クラブは大会を開催したり、お祭に剣道の演舞を行ったり、ポスターなどで会員の募集には努力している。特に、18歳以下の青少年の募集には力をいれているが、西ドイツにおいてはサッカーやハンドボールに人気が集中していて、剣道の会員募

集には厳しいものがある。日本の武道である柔道・空手道は相当度に知っている。しかし、剣道に関しては全く無知に等しい状態である。

また、剣道をはじめても、90%位のドイツ人は、すぐにやめてしまう点である。

3. 最後に、これは最も重要な問題であると私は考えるのであるのが、会員の剣道に対する考え方という問題である。

たしかに指導者のレベルにおいては、剣道の理念を理解しようと真剣に努力しているものの、比較的層の厚い20代の会員層の中には、時として非常に意識の低いものが厳然として居るのである。

たとえば、試合においては、あまりにも勝敗のみに重点が置れ過ぎ、剣道本来の立派な人間形成ということが、なおざりにされているのではないかと感じられるのである。

この件に関しては、一応は指導者や講習会などの絶対数の不足も考えられるが、やはり範となるべき日本剣道そのものの中にも大きな問題があると思われるからである。日本国内においても、この事実は厳しく批判されているのである。日本国内であまりにも多くの大会が開催されるためか、日本の各道場や学校などの指導者も試合の勝敗に重点を置く指導になりがちである。

従って、歴史の浅い外国剣道家たちは、当然に日本の剣道を最高の目標としている。日本の指導者たちが、立派な人間形成を最終目的と考えている日本剣道の世界への普及を主張するならば、この課題を日本自から改善しなければならない義務があるであろう。それが、来るべき21世紀の剣道を荷なう若手剣道家の1人である私の、西ドイツ剣道に対する私の今後の役割なのだ。

5 むすび

以上、指導と見たままを書きつらねたように、西ドイツ剣道連盟は多く

の課題はあってもその不自由さを乗り越えながら、熱心に剣道に取り組んでいる。ヨーロッパにおいては、剣道の位置も高い。また、剣道を通じての世界平和への親善と貢献についても、いまだ微力ではあるが活発に行われ、意欲も旺盛である。私にとって、今回の指導は良い体験であり、多少ではあるが日本人から観た海外剣道と外国人から観た日本剣道を認識し理解することもでき意義深いものもあった。

今後も継続して一層の親善友好の実をあげるように計画だてたい。